

中玉・ミニトマト品種特性表

サカタ交配

品 種	項 目	葉の 大小	草 勢	節 間長	異 常茎	早 生性	果 形	果 重 (g)	果 色	先 とがり	耐虫性		耐 病 性								
											(N) ネマト ダ	(F) 萎凋病		(V) 半身萎凋病	T O M V	(G) L)	(J ・ 3)	(B) 青枯病	(C f)	葉かび病	スジ腐れ
												R-1	R-2								
シンディースイート®	やや小	中	長	やや多	極早	豊円	35~40	赤	なし	□	○	○	○	○	△	○	△	○			
シンディーオレンジ	やや小	中	極短	少	極早	豊円	45~50	橙	なし	□	○	○	○	○	○	○	○	○			
キャロルムーン	中	強	短	少	早	豊円	15~18	赤	なし	□	○	○	○	○	○	○	○	○			
キャロルスター	小	中	短	少	極早	豊円	15~18	赤	なし	□	○	○	○	○	○	○	○	○			
キャロルパッション	やや小	中	中	少	極早	豊円	15~18	赤	なし	□	○	○	○	○	○	○	○	○			
キャロル10	小	やや弱	やや長	極少	極早	豊円	10~15	赤	なし	□	○	○	○	△	○	○	○	○			
ミニキャロル	やや大	やや強	中	中	極早	豊円	15~20	赤	なし	□	○	○	○	○	△	○	○	○			
オレンジキャロル	小	やや弱	長	少	極早	豊円	10~15	橙	なし	□	○	○	○	○	△	△	○	○			
イエローキャロル	中	中	長	少	極早	豊円	15~20	鮮黄	なし	□	○	○	○	○	△	○	○	○			
キャロルクイーン	小	中	中	少	極早	豊円	15~20	赤	ややあり	□	○	○	△	○	△	○	○	○			
アリシア	小	やや強	短	極少	極早	豊円	13~18	橙	なし	□	○	○	○	○	○	○	○	○			
ララ	中	中	やや長	極少	極早	プラム	10~15	赤	なし	□	○	○	○	○	○	○	○	○			
アナ	中	中	やや長	極少	極早	プラム	10~15	赤	なし	□	○	○	○	○	○	○	○	○			
ジーナ	中	中	中	極少	極早	プラム	10~15	茶	なし	□	○	○	○	○	○	○	○	○			
ヘレナ	中	中	中	極少	極早	豊円	10~15	茶	なし	□	○	○	○	○	○	○	○	○			
ベロニカ	中	やや強	中	極少	極早	豊円	13~18	茶・縞	なし	□	△	△	○	○	○	○	○	○			
パトリシア	中	中	やや長	極少	極早	プラム	10~15	黄	なし	□	○	○	○	○	○	○	○	○			
クラウディア	小	やや弱	やや長	極少	極早	プラム	10~15	鮮黄	なし	□	△	△	○	○	○	○	○	○			
アイコ	大	中	長	極少	極早	プラム	18~25	赤	なし	□	○	○	○	○	○	○	○	○			
イエローアイコ	中	中	やや長	やや多	極早	プラム	18~25	黄	なし	□	○	○	○	○	○	○	○	○			

□：耐虫性 ○：抵抗性 △：耐病性

トマト葉かび病抵抗性品種

サカタ交配

トマトの種類	品種名	遺伝子	耐病性程度
大玉	かれん	Cf 9	◎
大玉	麗妃	Cf 9	◎
大玉	ハウスパルト	Cf 9	○
大玉	麗旬	Cf 9	◎
大玉	麗容	Cf 9	◎
大玉	ごほうび	Cf 9	◎
大玉	麗月	Cf 9	◎
大玉	麗夏	Cf 9	○
大玉	パルト	Cf 9	○
大玉	りんか409	Cf 9	○
大玉	サンロード	Cf 4	△
大玉	マイロック	Cf 9	○
中玉	シンディースイート®	Cf 4	△
中玉	シンディーオレンジ	Cf 9	◎
ミニ丸玉	キャロルムーン	Cf 9	◎
ミニ丸玉	キャロルスター	Cf 9	○
ミニ丸玉	キャロルパッション	Cf 9	○
ミニ丸玉	キャロル10	Cf 9	○
ミニ丸玉	アリシア	Cf 9	○
ミニ長玉	ララ	Cf 9	○
ミニ長玉	アナ	Cf 9	○
ミニ長玉	パトリシア	Cf 9	○
ミニ長玉	クラウディア	Cf 9	○
ミニ長玉	アイコ	Cf 9	○
ミニ長玉	イエローアイコ	Cf 9	○

耐病性程度は、△…中、○…強、◎…極強

まめ知識 トマト葉かび病

●葉かび病とは？

かびによって主に葉に発生する病気で、20~25℃が発病適温、湿度95%以上の多湿を好みます。初めは葉の表側に淡黄色の病斑が現れ、やがて葉の裏側に灰白色のかびが発生します。かびは古くなると茶褐色に変色し、葉枯れを起こします。症状がひどくなると、着果不良や果実の肥大不足、糖度低下を引き起こします。葉かび病菌は、ハウスのガラスやビニール、支柱などの表面に付着して生き残るので注意が必要です。

●葉かび病抵抗性品種を上手に使いこなすコツ

トマト生産圃場内においては、色々なレースの葉かび病菌が混在していると言えます。よって、遺伝子Cf-9を打破するレースが圃場で出たとしても、その他のレースには抵抗性があるため、Cf-9保有の品種はまだ有効であると考えられています（数年後はわかりません）。しかし、近年葉かび病抵抗性品種の導入が進んだことによる農薬散布減少により、トマトすすかび病、うどんこ病などの病害発生が増えていること、また抵抗性も将来的には打破される恐れがあることから、多湿を避け、健全な植物体をつくるとともに、予防薬中心の薬剤散布を含めた総合防除を心がけてください。